



小・中学校の施設について

佐藤 真

問 近年、文部科学省などから学校トイレ改善のための提言がなされている。また、避難所としての機能を考えると、高齢者は和式便器が使えないなどの問題もある。市として学校トイレの洋式化についてどのように考えるか。

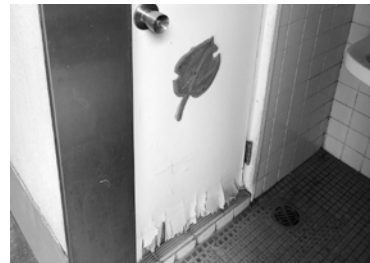
答 未改修の3中学校が優先されるべきと考えられる。避難所としての機能から、学校の低層階から部分的な改修を進めていくなど、段階的に整備することを検討する。

問 学校現場からの改善要望や、避難所での高齢者の使用を考えると、トイレの環境整備が必要と考える。原則洋式化していく。

答 学校現場からの改善要望や、避難所での高齢者の使用を考えると、トイレの環境整備が必要と考える。原則洋式化していく。

問 今後のトイレ改修計画は、どのように進めるのか。

答 大規模改修をしていない高根・高萩北・武蔵台中学校は、トイレも未改修で良好な環境とは言えない。衛生的で快適な学習環境確保のためにも、優先的に取り組む課題と認識している。



改修が必要なトイレ

児童生徒の相談体制の充実について

問 子どもが身近な悩み事を相談できる環境づくりが、事態の悪化や問題行動を防ぐ上でも大切であることから相談に関わる人を増やす方策は。

答 今年度はスクールカウンセラーが1人増員されたが、引き続き専門職の配置を県教育委員会に要望する。また、学校応援団を中心とする保護者や地域の人とゆるやかなネットワークを作り、子どもを支える仕組みづくりを共に行う。



高齢者の安全運転支援について

鈴木 健夫

問 高齢者ドライバーのために、安全運転サポート車を普及させる取り組みは。

答 安全運転啓発チラシを配布し、また、警察などの関係機関と連携し、市民に安全サポート車を体験する機会を増やす。

問 ペダル踏み間違い時の急加速を防ぐ機能がある後付けの「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」の高齢者を対象とした購入支援策は。

答 現時点では設置補助等は考えていない。



高齢者ドライバー

問 高齢者の移動手段としてコミュニティバスや、デマンド型乗合タクシーの導入推進など、地域公共交通ネットワークの充実を図ることについて、どう考えるか。

答 横手台・こま武蔵台自治会が実施中の地域自主運行事業（デマンド交通）を他の自治会にも紹介するほか、川越市や鶴ヶ島市などの近隣の地域公共交通について研究をする。

問 高齢者等おでかけ支援事業の拡充について

答 現時点では認知機能検査が義務付けられ、免許更新が厳しくなる75歳以上の高齢者を対象とすることが適当と考える。

問 免許の自主返納者への1回限りの条件の廃止についての考えは。

答 制度は免許自主返納

に対する報償的なもので条件廃止は継続検討する。

問 免許返納時の事務手続きの簡素化については、申請は市役所窓口と各出張所で受け付け、郵送による申請もできる。

問 現在の7千300円の補助限度額の引き上げは検討しているか。

答 他の自治体の動向等を踏まえ、適切な補助限度額を研究・検討する。

SDGs（エスディーズ）について

問 今、各自治体で展開されているSDGs（持続可能な開発目標）の実現にどう取り組むのか。

答 総合計画の基本計画にSDGsの「経済」、「社会」及び「環境」の三つの側面を盛り込み、誰一人取り残さない社会の実現につなげ、関係団体と協働して、SDGsの周知と関係施策の推進を図っていく。